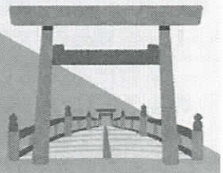
三重県教師会 復刊記念号



令和６年８月４日（日）発行

主要目次

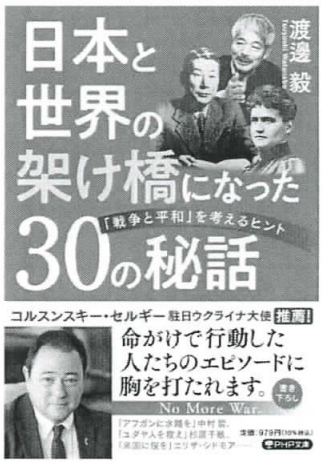
①渡邊 毅
「三重県教師会再興にあたって」

②溝口 哲志
「タブレット端末の持ち帰りを活用した道徳科の授業」

③諸橋 宏政
「ワークショップ型の授業を通した郷土愛の育成」

④峯 望
「三重県の郷土話」

おすすめ本



渡邊 毅
『日本と世界の架け橋になった30の秘話「戦争と平和」を考えるヒント』
PHP研究所、2023.6.2

【 目 次 】
前編
日本から世界へ放つメッセージ（敗者・弱者に手を差し伸べ、温かな心を―人道と博愛の伝統；恩讐や国境を越えて人を救う；異国の人々の繁栄と幸せを願って）
後編
世界から日本への贈り物（日本の美とこころを世界に発信；ありがとう！日本のために）

三重県教師会再興にあたって

三重県教師会が、２０数年ぶりに再興された。日本教師会発展にとっての慶事である。

三重県教師会を支援してきた三重県教育県民会議が解散されたのが、平成９年(１９９７)。それとともに、県内教師会員が減少し、いつしか活動も停滞して自然解散のようになっていたが、この度令和５年に新たに会則を立て、役員を決定して発足することになった。

思い起こせば、三重県教師会の結成大会は、昭和４２年(１９６７)１１月２５日、津市の三重県水産会館で行われている。今から５７年前のことである。なお日本教師会の結成が昭和３８年(１９６３)だから、その４年後に三重県教師会は誕生したことになる。

三重県教師会の結成準備会は昭和３９年(１９６４)から始められていたが、これに対する三重県教職員組合(三教組)からかけられた圧力は強かったようだ。三教組は組織問題臨時対策委員会を開いたのをはじめ、各地で悪質な妨害活動を展開したことが伝えられている(『日本の教育』昭和３９年１０月１日)。

結成大会には、県教育長をはじめ県下の同憂の教師、父母３００名余りが出席した。会長に西山徳皇學館大学教授、副会長に早川赳夫(平田野中学校)、喜多一男(白子高校)、福江八郎(松阪第四小学校)が選出された。

三重県教師会は以来皇學館大学を中心に教育正常化の活動を広げていった。会員は約３００名。毎月定例会が行われ、県内では浜地文平(衆議院議員、皇學館大学理事長)を中心として三重県教師会賛助会(後に三重県教育会議・三重県教育連絡協議会と合同して三重県教育県民会議となった)が結成されている。

この賛助会のバックアップにより伊勢市駅から５分のところに月額５万円の事務局室が借り受けられている。ここには専従職員がおり、５０名収容可能な研修会議室では月例講座や研修討議、企画会議が開かれたという。

こうした三重県教師会の最盛期には、三教組による所謂労働組合活動や革命闘争運動が盛んに展開されこともあり、組織対抗的な活動が激化していたときでもあった。それだけに教師会も会員相互に強い緊張感や結束力が保たれていたのだと思う。

すでにそのような両組織による対抗的運動の時代は終わっているが、現在教育界では新たな問題・課題が浮上してきている。教師不足、メンタルヘルスの問題、ＩＣＴの導入と対応、教育改革とカキュラムの変更に対する負担など。教師会は、これまで大切にしてきた国民教育に加えて、こうした現代的な教師を取り巻く問題・課題に取り組み、日本の教育に活路を見出し、貢献していかなければならないと思うのである。

渡邊 毅（皇學館大学教授/三重県教師会会長）

タブレット端末の持ち帰りを活用した道徳科の授業

1．はじめに

道徳科の授業では、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に捉え、自己の生き方についての考えを深める学習を通して、道徳的な判断力、実践意欲と態度を育てることを目標としている。

しかし、45分間という授業の時間の中で、子どもたちが自分の考えをまとめ、友だちの考えから新たな考えを持つことが十分にできずに、登場人物の心情理解だけにとどまる授業となることで、子どもたちが学びを深めることができないといった課題もある。これらの課題を解決する1つの手立てとして、1人1台端末の持ち帰り学習を通して、子どもたちが主体的に学び、自身のことを振り返ることができる授業の構想について提案をする。

2．実践について

実践の流れについては、以下の通りである。

○1人1台端末を活用した授業の流れ
【事前学習】
自　　宅：タブレット端末を使って徳目に対する意見を集約する。(図1)
【授　業】
導　　入：主題に向けての方向設定
展開前段：道徳的諸価値について考える
展開後段：考えた事を深めていく(図2)
　　もう1度徳目に対する意見を集約する。
終　　末：本時のふりかえりをする。(図3)
　　振り返りのノートに書いてタブレット端末で提出。
【持ち帰り学習】
ふり返り：友だちの振り返りを見て、もう1度ふりかえりを書く。
　　書いた振り返りは次の日の朝の会で確認する。

授業の前に意見を集約できるアプリケーションを活用し、子どもたちが本時で考える徳目に対してのイメージや考えを記入させる。授業の終盤で、再び同じ質問を児童にすることで、授業前との考えを視覚化し、授業前後での考えの変化を比較させることができる。これは、授業終末のふり返りの際にも活用することができる。ふり返りはノートに書き、図3の様にタブレット端末上に提出する。提出したふりかえりは共有機能を活用することで、級友のふり返りを自分の端末から見ることができる。その後、タブレット端末を持ち帰り家庭学習で、友だちのふり返りを見て、もう一度自分の考えをまとめる。

3．子どもたち変容と今後の課題

実践を通して、子どもたちからは以下のような声を聴くことができた。

子どもたちの意見　（一部抜粋）

・授業のはじめと終わりで考えの変化を比較することで、どんなことを学んだかわかりやすかった。
・発表が苦手だから、書いたものをタブレット上で見てもらうことで、言いたい事を友だちに伝えることができてよかった。
・家でもう一度振り返りを書くことで、ゆっくり自分のペースで考えながら書くことができるのがいい。

端末の持ち帰り学習は、子どもたちが本時での学びを深めたり、発表に対して苦手意識を持っている児童の発言を促したりする1つの手助けになったと考える。今後は、情報モラルの指導や、各家庭のネット環境に配慮をする等の課題も考えながら取組を進めていく必要がある。

溝口 哲志（三重県公立小学校教諭／三重県教師会副会長）

図1

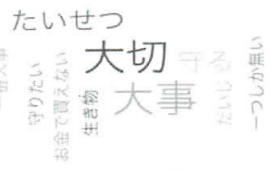


図2

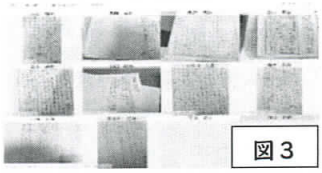
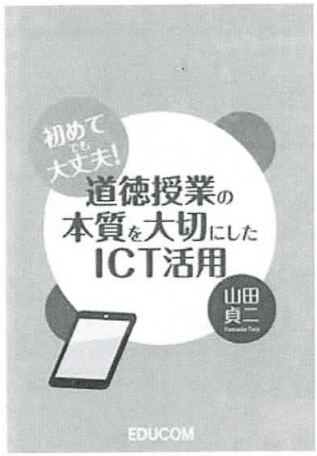


図3

おすすめ本



山田 貞二
『初めてでも大丈夫!道徳授業の本質を大切にしたICT活用』
EDUCOM、2022.5.16

【 目 次 】

序章 GIGAスクール構想と道徳科の本質
第1章 授業展開の幅を広げるICT活用
第2章 主体的・対話的で深い学びの視点からの活用
第3章 道徳科の評価とICT活用
第4章 アイデア実践事例集
第5章 未来予想図～ICT活用が創る道徳授業の姿～

ワークショップ型の授業を通した郷土愛の育成

平成29年に学習指導要領が改定され、これまでの教師主導の授業に対して、学習者主体の授業が工夫されるようになってきた。「ワークショップ型の授業」もまた学習者主体の授業のひとつである。ワークショップ型の授業は「自由感のある活動を通して学ぶこと」「関心、意欲、態度を基礎とした主体的な学びの力を育てる」（上條 2005）と定義されている。現行の学習指導要領の目標である「自国を愛し、その平和と繁栄を図ること」を目指し、中学３年生を対象にワークショップ型の授業を行った。

「三重県を盛り上げる企画を考えよう！」と題し、全９時間の中で企画をまとめ、クラスに向けて発表を行った。この単元を始めるにあたって生徒には、

（１）三重県の市町村のうち１つ絞って魅力を伝えること。
（２）その市町村に存在する課題を見つけること。
（３）その課題を解決するような企画を考えること。

を条件として伝え、一人一台端末などを活用しながら調べ学習を行った。

ワークショップ型の授業の課題の一つとして「放任」になってしまう恐れがあることが指摘されるが、毎時間の最後に振り返りシートに進捗状況をまとめさせフィードバックを行った。現在困っていることや助けてほしいこと、こちらが気になったことなど教師から返事を書くことで生徒の進度を見取り、それぞれの調べ学習に対して必要な手立てを行った。特に印象的だった生徒Ａとの振り返りシートのやり取りを紹介する。

Ａ：僕は温泉が好きなので温泉について調べた。令和は温泉が少ないが江戸のときは多い。なぜかわからなかった。
教師：温泉はどんな場所にできるんだったかな？授業を思い出して！
Ａ：三重県にあったのは温泉ではなく銭湯だったことが分かった。伊勢与一という人が江戸で初めて銭湯を建てたことや、お伊勢参りのみそぎと銭湯が関係していることが分かった。しかし、伊勢の銭湯は年々減少している。先生、図書館に何か資料がないか聞けませんか？
教師：だったら伊勢市立図書館に聞いてみようか。あなたはそんな銭湯をどうしたいの？
Ａ：廃業した銭湯を改築して新しい銭湯を作り、伊勢の銭湯文化を取り戻したい。

この生徒Ａは普段の授業では学習に意欲を見いだすことができず、授業に対して後ろ向きな発言も多かった。しかし、「温泉が好き」という自発的な意欲をきっかけに資料を図書館に求めたり、また「伊勢の銭湯文化を取り戻したい」とまで考えることができた。

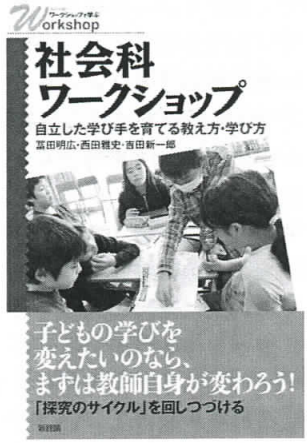
この一例だけを取って、ワークショップ型の授業の全てに意味があるとは言えないが、学習者主体の自由感のある活動だったからこそこの生徒Ａに伊勢の銭湯文化を愛する心が醸成されたのではないだろうか。

諸橋宏政（三重県公立中学校教諭／三重県教師会会員）

参考文献１

上條春夫・江間史朗
『ワークショップ型授業で社会科が変わる（中学校）』
図書文化社、2005.11.1

参考文献２



冨田明広・西田雅史・吉田新一郎
『社会科ワークショップ』
新評論、2021.7.9

ワンポイント

【 伊勢与一 】伊勢出身
「天正十九年の夏頃かと、伊勢与市といいしもの、銭瓶橋のほとりに、せんとう風呂一つ立つる。風呂銭は一永楽銭なり。皆、めづらしき物かなと入り給ひぬ。されども、その頃は、風呂ふたんれんの人あまたにて、あつあつの雫や、鼻がつまりて物もいはれず、煙にて目もあかれぬといひて、小風呂の口に立ちふさがぬる。風呂をこのみしが、今は、町ごとに風呂あり。びた十五銭廿銭づつにて入るなり。」「慶長見聞録」より

三重県の郷土話

三重県は旧伊勢国・伊賀国・紀伊国・志摩国の4国からなり、様々な民話や伝承などが語り継がれています。これらの話は、ただ語り継がれているだけではなく、現在も何らかの形で私達の日常生活の中に存在しています。この機会に三重県内に残るお話の一部を紹介します。

1つ目は四日市市の「白馬の恩返し」です。四日市市には午起という地名がありますが、その起源となった伝承です。景色のきれいな浜がある村で、砂浜を干して埋め立て、田畑に変える干拓工事の話が持ち上がりました。この話を聞いたおじいさんは愛馬にこの話を聞かせます。

「こんなきれいな海端を人間の手で変えてしまうとは、海を支配しておらっせられる海神さんにわかったらえらいことになって、きっと叱られるぞ」。おじいさんは同じことを村人にも言って回りましたが、誰一人としておじいさんの話に耳を貸す人はいませんでした。おじいさんの願いもむなしく、干拓工事は進められ、工事は終わります。

それから間もなく、真夜中に激しく床をたたく馬の足音でおじいさんは目を覚まし、外へ出ると大津波が浜の方へ向かってきていました。おじいさんは村中に知らせましたが、眠りが深いようで誰も起き出さず、大津波は一瞬のうちに村中の家々を飲み込んでしまいました。気がつくとわが子のように可愛がっていた白馬さえいなくなってしまっていました。自分を助けて消えていった愛馬を思い、悲しみに暮れるおじいさんには白馬に対して「ありがとう」と、それ以上の言葉が出ませんでした。そこには寄せては返す波の音と、寂しそうなおじいさんの姿だけがあったそうです。

2つ目は熊野市に残る河童伝説です。熊野市のある地域には、昔から河童が出没して人々を怖がらせたという言い伝えがあります。ある時、河童と里の人々の間で、「里の人は河童の好きなキュウリを作らないから、河童も二度と里で悪さをしてくれるな」という約束がなされました。それ以降、里のものはキュウリを作らず河童も現れなくなったそうです。

その約束は昭和に入ってもかたく守られていましたが、昭和55年頃、キュウリを作る話が出ました。地域の人は300年間の河童との約束を破っていいのかどうか、何度も集まり相談が行われ、「これも時代の流れ。現金収入の道が開ける」という結論にいたり、栽培を始めることになりました。河童との約束を破ってしまいましたが、河童がお怒りにならなかったことをありがたいと思い、河原を眺められる場所に「カッパ之碑」を昭和58年に建立したとのことです。

今回はほんの一部を紹介しましたが、各地に様々な民話や伝承が残っています。まずは教師自身が足を運び、語り伝えられてきた話や土地を知ることが、良い郷土教育を作り上げていく第一歩ではないのでしょうか。今回紹介したお話がそのきっかけになればと思います。

峯 望（三重県立高等学校教諭／三重県教師会会員）

参考文献1

みえ熊野学研究会編集委員会編『みえ熊野の歴史と文化シリーズ⑥熊野の文学と伝承』みえ熊野学研究会、2006

参考文献2

四日市市文化振興財団編『La Sauge＝ラ・ソージュ ふるさと四日市を知る本 文化展望・四日市』第18号、四日市市文化まちづくり財団、2001.3

研修「大人の修養」

三重県教師会では、毎月1回を原則として「大人の修養」と題したオンライン研修会を実施しています。

研修とは、本来は「研究」と「修養」で成り立ちますが、教員研修の多くは「研究」偏向となっており、「修養」は個人に任されているのが現状です。

そこで、本物の教員になるべく、「修養」を重視し、個人ではなく多くの方と学び合っています。

具体的には、加地伸行『論語増補版』（講談社学術文庫）をテキストに、論語から教員としての生き方をそれぞれが発表しています。

ご興味のある方は、下記の問い合わせにご連絡ください。

加地 伸行
『論語 増補版』
講談社、2009.9.10

問い合わせフォーム

フォームよりお問い合わせください
https://forms.gle/yUWhqwHggUR1Fkm29

①入会希望の方も問い合わせフォームより「入会希望」とお問い合わせください。
②オンライン研修会「大人の修養」参加希望の方
③広告掲載も募集しております。こちらも、問い合わせフォームよりお問い合わせください。